

下都賀管内水稲技術資料 No.3

令和6年7月19日
下都賀農業振興事務所

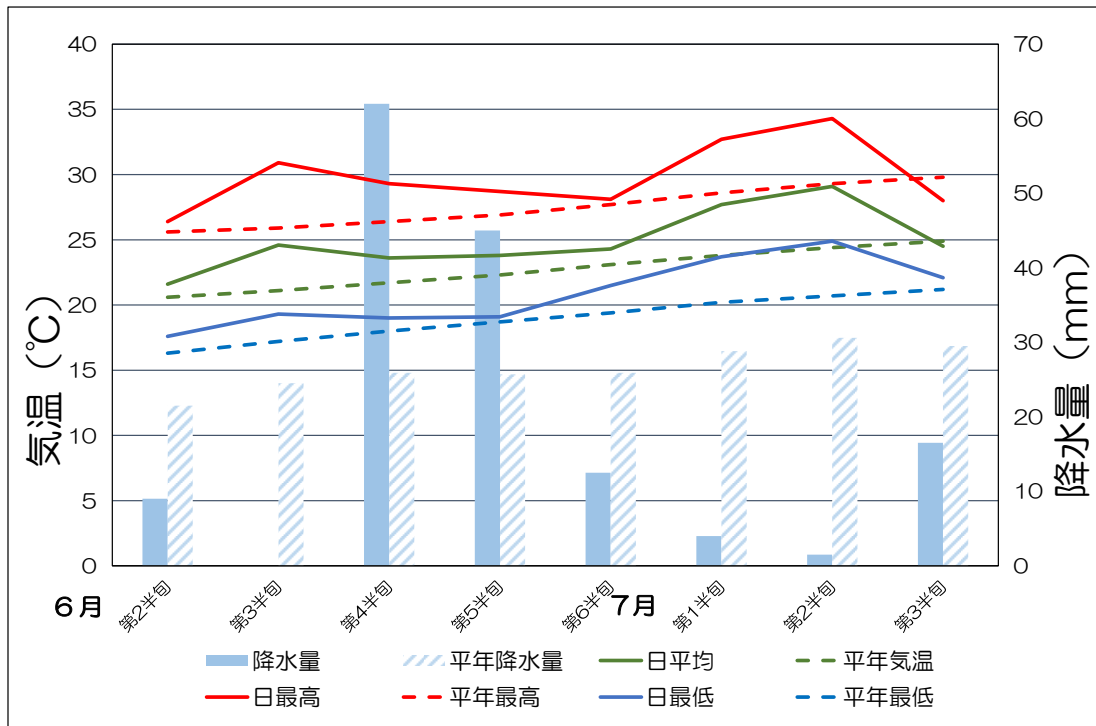
重点ポイント

高温少雨による品質低下を回避しましょう!

- ① 現在最も水を必要とする時期です。水不足にならないよう、かん水を行いましょ。
- ② 出穂期から穂揃期の葉色が淡い場合は、追肥を行いましょ。
- ③ 不稔による減収、斑点米の原因となる「イネカメムシ」の発生を確認した場合は、出穂直後の防除を実施しましょ。

1 気象の経過

6月は気温が高く推移しました。関東甲信越では6月21日ごろに梅雨入りしました。6月第6半旬から7月第3半旬(6/26~7/15)は降水量が平年よりも少ない状況でした。



※小山市アメダスデータ

2 気象庁の1か月予報(7月4日発表)

今後も高温が予想されます

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	関東甲信地方	向こう1か月 07/06~08/05	10	10	80
		1週目 07/06~07/12	10	10	80
		2週目 07/13~07/19	10	30	60
		3~4週目 07/20~08/02	20	30	50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 07/06~08/05	20	40	40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 07/06~08/05	40	40	20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 早植・水稲生育診断ほ（7月5日調査）の生育調査結果

7月5日時点では、去年と比べ、草丈・葉色は平年よりも大きくなりました。

表1 水稲生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

品種：コシヒカリ 移植日：5月3日	本年 (7月5日調査)	昨年
草丈 (cm)	87.1	83.2
茎数 (本/m ²)	541	576
葉齢	11.9	11.9
葉色 (葉色板)	3.2	2.9
生育診断値 (葉色×茎数)	1,733	1,642

4 水稲の出穂期

栃木県農業研究センターの出穂予測では、下都賀管内では7月22日に出穂すると予測されます。

県南部の早いところでは、7月19日頃から出穂が始まる予測となっています。

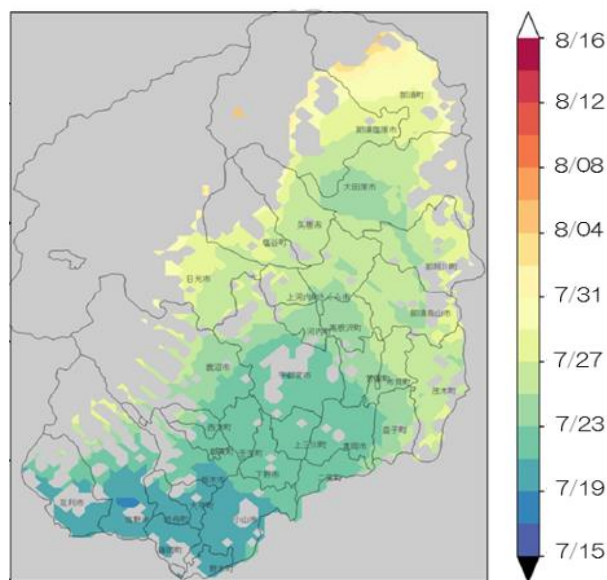


図1 メッシュ農業気象データによる県内出穂期予測（農研センター計算）

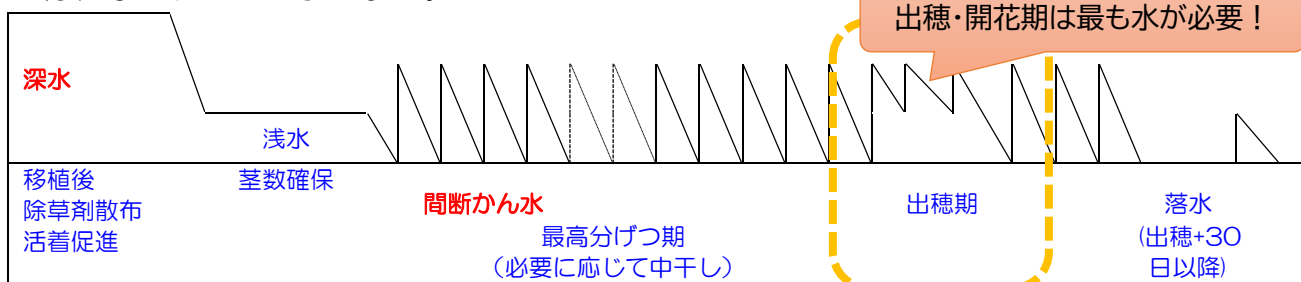
5月4日移植を基準としてDVR法で計算

5 水管理

現在は幼穂形成期で、稲の生育の中で最も水が必要な時期です。この時期に水が不足すると1穂粒数の減少や奇形穂が発生しやすくなるため、水不足にならないよう、かん水を行いましょ。

今年は降水量が少なく、ダムの水が不足するなどが懸念されています。番水方法や用水の有効活用などについて地域で話し合っておきましょう。水不足に備え、ほ場の周辺の点検を行いましょ。

出穂～登熟中期に水不足になると水稲品質を著しく低下させることから、早期落水は絶対に行わないようにしましょう。

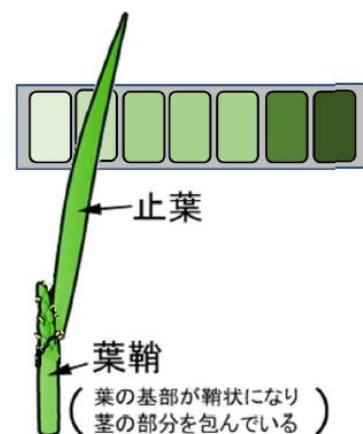


※水管理イメージ図

6 高温障害による品質低下を回避する施肥について

出穂後 20 日の平均気温が 27℃を超える高温年の場合、出穂期から穂揃期の葉色が薄い場合は白未熟粒が発生しやすくなります。

品質を低下させないために、出穂前 5 日（走り穂が出る頃）の止葉葉色が、SPAD 値で 34 以下、葉色板で 3 を下回っていれば、速効性の窒素肥料で **2~3kg/10a** の追肥を行いましょ



7 病害虫

① カメムシ（イネカメムシ）

イネカメムシは、斑点米を発生させるだけでなく、出穂期の籾に加害することで、不稔を引き起こし、減収を招きます。多発した場合に適期の薬液散布ができないと、大幅な減収となる可能性があります。

従来の斑点米カメムシ対策と異なり、穂揃期以降ではなく出穂期から薬液散布を開始することが重要です。不稔を防止するには、出穂期直後の液剤散布を実施し、その後は斑点米カメムシ対策と同様の薬液散布を行いましょ。



② いもち病（葉いもち）

いもち病は気温 25~28℃で湿度が高い条件で感染拡大が進むので、ほ場をよく見回り、早期発見・早期防除に努めましょ。

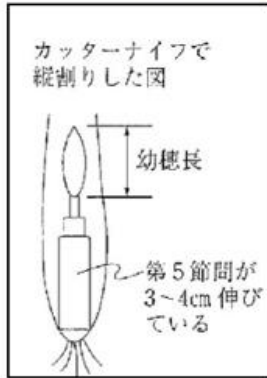
表2 BLASTAM による葉いもち感染好適条件判定結果（令和 6 年度）

日付	小山	佐野	日付	小山	佐野	発生指標	
6月24日	●	—	7月1日	●	—	?	判定不能
6月25日	—	—	7月2日	—	—	—	好適条件なし
6月26日	—	—	7月3日	—	—	1	準好適条件1
6月27日	—	—	7月4日	—	—	2	準好適条件2
6月28日	—	—	7月5日	—	3	3	準好適条件3
6月29日	—	—	7月6日	3	—	4	準好適条件4
6月30日	—	—	7月7日	3	—	●	好適条件

③稲こうじ病

昨年多発したほ場は、防除適期（出穂 20～10 日前）に効果的な薬剤を散布しましょう。
 なお、適期を逃がすと効果が低下するので注意しましょう。

幼穂長の測定と防除適期



出典：「安心イネづくり」
 p66(農文協)

幼穂長	出穂前日数(約)
2mm	22日
5mm	20日
8mm	18日
20mm	15日
80mm	10日

平均的な生育の株を探し、草丈の最も高い茎1本を根元から取る。

稲こうじ病の防除適期



8 普通植・水稻生育診断ほ(栃木市皆川城内町)の生育調査結果

7月5日時点では、生育は一昨年並みで順調に進んでいます。

品種：とちぎの星 移植日：5月23日	本年 (7月5日調査)	一昨年
草丈 (cm)	62.1	63.2
茎数 (本/m ²)	524	412
葉齢	9.9	9.8
葉色 (葉色板)	4.0	4.1
生育診断値 (葉色×茎数)	2,117	1,675

※昨年は薬害が発生したため一昨年と比較しています。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にして
まる～

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業総合研究センター 検査指導課

検索

CLICK!

問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>